

第1学年生活科の実践

1 単元名 「あきだ！ いっぱいあそぼう」(全17時間)

2 単元目標

秋の校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、秋の遊びのおもしろさや自然のふしぎさに気づき、安全に気をつけて、みんなで遊びを楽しむことができる。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・判断	身近な環境や自分についての気づき
○秋の自然に関心を持ち、秋の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなどして、楽しく生活しようとしている。	○季節の変化について自分なりに考えたり、身近な自然やものを利用した遊びを工夫したりして、それをすなおに表現している。 ○みんなで楽しく遊べるように遊びの約束やルールを考えながら、みんなで楽しく遊んでいる。	○秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりするおもしろさや、自然の変化やふしぎさ、秋の自然を使ってみんなで遊ぶことの大切さに気づいている。

3 「ひびき合う子どもたち」を目指すための指導の工夫

テーマ「ひびき合う三の丸の子どもたち」

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習をする子どもの育成」

手立て…子どもの「切実な問題」を見とった授業づくり

ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿・自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿

(1) 単元と指導

① 単元について

生活科は、身近な自然の中で「自分とのかかわり」を軸に「具体的な活動や体験」を通して学んでいくという特徴がある。学習過程において、「おや？なんだろう。」と興味・関心や疑問をもったり、「わくわく」しながら主体的に活動したり、「もっとこんなことをやってみたいな。」と新たな願いを生み出したりするような子どもの生き生きとした姿を見ることが出来る。本単元では、秋という季節を体で感じて木の実を集めたり気に入った落ち葉を見つけたりする楽しい活動を通して、自分と自然とのかかわりを実感してほしい。また、自然をより身近に感じたり、自然にあるもので自分の生活を楽しんだりする中で、自然のふしぎさやおもしろさに気づかせていきたいと思う。これらの活動を通して、友だちとのかかわりも大切であることに気づかせたい。おもちゃ作りや飾り作りをする中で、一人では見つけられなかった作り方や工夫を教えてもらえたり、また自分の考えたアイデアを伝えたりする喜びを感じ、ふれあいながら楽しむ体験を多く重ねさせたいと思う。

10月半ばにあさがおの茎でリース作りをしていたときに、まわりにどんぐりが落ちてくることに気づき、子どもたちはまわりの様子が夏の頃とは違ってきたことに目を向けるようになった。自然の恵みを見つけたことに喜び、その恵みを使って何かを作って楽しみたいと「わくわく」している。自分の考えたおもちゃや飾りを作っていくと、材料や道具が足りない、作り方が分からない、材料をもっと集めるためにはどうしたらいいか、道具はどんな道具が必要か、どうしたら作り方が分かるのか、といった知的好奇心が生まれると考えられる。また、作ったおもちゃや飾りで「もっとみんなと楽しみたい。」という願いが生まれたとき、どんなルールや約束が必要なのか、みんなで共通に理解しておくことは何かを自発的に考えていくような学習過程になるのではないかと考える。今までの生活科の学習では、あまり立ち止まって考えたり工夫したりする場が少なかったが、本単元の学習を通して活動ありきにならずに、自分たちの願いを実現するための学び合いとなるようにしていきたい。

② 指導について

自分で拾ってきた木の実や落ち葉を使ってどんなことができるのか、どのように楽しむのかは子どもにとって楽しい課題となる。ただ、活動と思考が未文化であるという低学年の発達特性を踏まえ、まずは活動して思考するという学習過程を考えた。子ども自ら「もっとこうしたい。」という願いをもち、単元の終わりまで主体的に学習できるように、活動する段階であまり教師が準備や手助けをしないようにする。そして、活動を止めて考えるというよりは、活動の途中でどうしても考えたいという場面を作り出していく。一つ目は、集めた木の実や落ち葉で好きなものを作ったとき、「楽しく遊びたい。」という思いが予想される。「楽しく遊ぶ」ためには、いろいろ工夫する必要があることに気づき、準備や制作など主体的に活動できるだろう。工夫を考え、それをいかしてまた作り、楽しむ。このように活動と思考を繰り返して自分たちの願いに近づいていく学習のよさを味わわせたいと思う。二つ目として、一人で遊んだり自由に遊んだりするだけでなく、「友だちやみんなと一緒に遊びたい。」という願いが生まれてくると考える。ルールや約束を作ったり活動を広げたりして楽しませたい。また、みんなで決めたことを守りながら楽しむ活動を経験させたい。

③ ひびき合いについて

学習を進めていくと、自分のやりたいことだけでは満足できず、もっと友だちと一緒に遊びたいと思うであろう。そこで、友だちと一緒に楽しむためにはどうすればよいか。ただ、自分の気持ちだけ発するのではなく、友だちの思いを聞いて受け入れることで活動が広がり、深まったときに楽しいと感じてほしいと思う。友だちと活動しながら、自分に関連している意見や全く新しい発想などを聞くことで友だちのよさに気づき、また、自分の活動に活かすといった姿を目指していきたいと思う。

本單元では、秋のもので好きなものを作るが、同じようなものを作っている友だちと一緒に作りたくなり、グループがいくつかできると考えている。もっとよいものを作ろうと思ったとき、友だちに聞きたいという気持ちや教えてあげたいという気持ちをもつ子どもが出てくるだろう。おもちゃ作りや飾り作りのグループになって楽しみながら交流する姿、また、違うおもちゃや飾りを作るグループについても関心をもって、お互いのよいところを認め合う姿を「ひびき合い」としたい。

4 単元指導計画（全17時間＋図画工作科2時間）

学習の流れ	主な支援・留意点【評価の観点】
<p><u>あきのおくりものを見つけよう③</u></p> <p>○校庭であきのおくりものを見つけよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化について気づいたことを話し合う。 ・校庭で「あきさがし」をする。 <p>○森林公園へあきのおくりものを見つけに行こう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園で「あきのおくりもの」を見つけたり、遊んだりする。 ・見つけた「あきのおくりもの」を絵や文に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から子どもの言葉や見つけてきた木の実などをきっかけに、「あき」の話題を広げ、意欲を喚起して導入を図る。 ・夏の公園の様子と比べながら調べることで、自然の様子が変わってきていることに気づけるようにする。 ・秋の公園の様子に関心をもち、公園の動植物を観察したり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
<p><u>あきのおくりものであそびたいな⑦</u></p> <p>○あきのおくりもので何をしようかな。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきのおくりもので何をしたいか話し合う。 ・自分が作りたいものを設計図に書く。 <p>○あきのおくりものでおもちゃや飾りを作ろう。② (+図画工作科②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきのおくりものを使って、おもちゃや飾りを作る。 <p>○できあがったおもちゃや飾りで遊ぼう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったおもちゃでたくさん遊ぶ。 ・作った飾りをかざる。 ・友だちが作ったおもちゃでも遊んでみる。 <p>○自分が作ったおもちゃや飾りを紹介したり、作りなおしたりしよう。③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったものを紹介し合う。 ・もっと楽しく遊べるように工夫したり、もっときれいになるように作り直したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拾った木の実などを置いておく場を設定し、自然の材料を集める活動への意欲化を図る。 ・秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使って秋の動植物を観察し、それらを使ったおもちゃや飾りを考える。 <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾い集めた自然物を教室に飾って楽しむなど、自分たちの生活を楽しめるようにする。 ・秋の自然物を使った遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然の特徴を利用して、遊びを工夫したり、遊びのルールを考えたりして、みんなで楽しく遊んでいる。【思考・判断】 ・秋の自然物を使って遊びをつくり出すおもしろさに気づいている。【気づき】
<p><u>みんなであそぼう⑦</u></p> <p>○みんなでおみせやさんをしよう。③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなお店やさんにしたいのか、話し合う。 ・自分が作ったものに満足する。 ・友だちが作ったものにも関心をもつ。 <p>○次は、どうしたいのか話し合おう。①（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達だけでもう一度お店やさんをする。 ・今度は他の人も招待する。 ・遊びの約束やルールを新しく決める。 ・練習をする。 <p>○みんなであそぼう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度お店やさんをする。 <p>○活動の振り返りをしよう。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試し遊びを繰り返し、自分のおもちゃや飾りを改良することを通して、遊びに使うものを工夫してつくることのおもしろさを実感させる。 ・遊ぶときの約束やルールなどを考えさせ、それらを使って遊ぶと楽しいことに気づかせる。 ・友だちのおもちゃで遊んだ後に、おもちゃをつくった友だちに感想を伝える時間を確保する。 ・自分や友だちのつくったおもちゃや飾りに関心をもち、みんなで楽しく遊んだりおもちゃや飾りのことを伝え合ったりしようとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫しながら遊んでいる。【思考・判断】

5 本時について（14 / 17）

(1) 本時目標

「次は、どんなお店やさんをしてみたいか」について話し合う活動を通して、友だちの考えのよさに気づき、次の活動へいかそうとする意欲をもつ。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の支援・留意点・評価（◇）
<p>1 前時のお店やさんについて思い出す。（全体）</p> <p>【よかったところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんのけんだまがおもしろかった。 ・トトロがかわいい、っていってくれてうれしかったよ。 ・さかながつれたから、しょうひんがもらえたよ。 <p>【こまったところ】 → 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おみせやさんとおきゃくさんのりょうほうをやるのは、たいへんだったな。 → おきゃくさんをしょうたいしたい。→ だれを？ ・ぼくのおみせには、おきゃくさんがすくなかったよ。 → おきゃくさんのよびかた ・ルールややくそくをかんがえたけど、うまくいかなかったよ。 → ルールややくそく ・こわれちゃったよ。 ・あきのおくりものがうまくつかえなかったな。 → あきのおくりものをつかったおもちゃやかざり 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を簡単に振り返る。 <p>◇遊んだおもちゃの楽しさや、プレゼントされてうれしかった飾りのことなどを、ワークシートに書いている。【気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんの～がおもしろかった。」という感想のものを、実演してもらう。 <p>◇自分や友だちの作ったおもちゃや飾りに関心を持ち、楽しく遊んだおもちゃのことや見た飾りのことを伝えている。【関・意・態】</p>
<p>2 学習課題について話し合う。（全体、各お店）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どのもんだいを一ばんにかいけつしたいかな。</p> </div> <p>【おきゃくさんをしょうたいする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストしゅぎょうはおわったから、つぎはだれかをしょうたいしたい。 <p>【あきのものをつくりなおす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわれたから。 ・〇〇さんのあきのおもちゃがおもしろかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どう思う？」などと問いかけ、子どもの考えを引き出す。その際、「～したい。」だけではなく、その理由をきちんと言うよう伝える。 ・課題のことを考えるときには、「1の1あきランド」とお店やさんのキーワード「おたわゆ」（みんなが<u>おもしろい</u>・<u>たのしい</u>・<u>わくわく</u>・<u>ゆかいな</u>きもちになるおみせやさん）を忘れないよう、おさえる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうやったら、かいけつできるのかな。</p> </div> <p>【おきゃくさんをしょうたいする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれをしょうたいするのか、きめようよ。 ・1ねん2くみがいいよ。まえにもやったから。 ・こんどはいっしょにやったことのない、1ねん3くみがいいよ。 ・うちの人にけてほしいな。 ・どうやって、しょうたいするの？ <p>【あきのものをつくりなおす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんにつくりかたをおしえてもらう。 ・もういっかいあきのおくりものをさがしに行く。 ・おみせやさんごとにはなしあったら、どうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで課題を解決していく中で、友だちの考えを大切にしたり、話し合いで解決したりできるよう、子どもの発表を分かりやすく板書し、お互いの考えが分かるようにする。 <p>◇キーワードを大事にして、課題や解決方法を考えたり、話し合ったりしている。【思・表】</p>
<p>3 次の学習課題について話し合う。（全体、各お店）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があったら、次の学習課題を決める。

6 実践を終えて

(1) 単元全体を通して、子どもとどのように単元を作ってきたのか。(子どもの思考の流れ)

「寒くなってきたよ。」「はっぱがたくさん落ちていたよ。」「はっぱの色も変わってきたね。」など、季節の変化に気づいた子どもの言葉から思考が始まった。

「あきのおくりもので、何かを作りたいなあ。」という願いを達成するために、様々な課題が生まれた。

秋に見つけられるものを“あきのおくりもの”とよぼう、と子ども達が名前をつけた。そしてあきのおくりものがないと何も作れない、ということに気づいたことから、

・あきのおくりものを見つけよう。

という課題がまずできた。運動場や森林公園、自分の家などでどんぐりやまつぼっくりなどいろいろなあきのおくりものを見つけた。実物を目の前にしたことから、早く作りたいと強く願う子どもの姿が見られた。

作ったら遊びたい、という思いから次のめあてが生まれた。

・あきのおくりものであそびたいな。

作り始める前に、設計図を描いたり必要な道具を考えたりした。そして、実際に作り始めたが、あきのおくりものが足りない、作り方が分からない、うまくできない、できたがすぐ壊れてしまう、などたくさんの困ったことが子ども達の中から出され、その度に話し合っ解決していった。

友だち同士で遊び始めたことにより、壊れる、もっともっと改良したくなる、違うものも作りたいくなる、など新しい気持ちが芽生えたので、同じように話し合ったり、活動したりしながら解決していった。

自分たちの遊びに満足したところで、お店やさんをやってあそんでいる子ども達がいたので今度は

・みんなであそぼう。

というめあてのもと、計画を立てていった。自分たちだけでお店やさんをしたり、誰かを招待したいと活動範囲を広げていったりする過程では、“おもしろく・たのしく・わくわく・ゆかい”な気持ちになることをキーワードにし、達成するために生じた問題を話し合い、工夫・改良しながらよりよいお店やさんになるよう活動していった。

(2) 本時の課題が子どもの切実な課題となったかどうか。

切実な課題となっていなかった。子ども達の意見から、お客さんをたくさん呼ぶ方法について考えようという課題を設定した。しかし、それ以前に誰を呼ぶのか、という点が全員の共通意識になかった。だから、呼ぶ方法を考えても招待する対象者が明確でなかった。子どもの意見をそのまま取り上げるのではなく、揺さぶりをかけたり、意見の整理をしたりと、子どもの切実さが見えてくるように導いていく必要があった。また、その課題を解決したいと願う子どもが多いからといって、それが切実な課題となるとはいえない。少数意見でも、全体に問い返し、全員の総意のもと課題が設定され、授業が展開されるようにしなければならない。

(3) 成果と課題（ひびき合いに関して）

〈成果〉

・自分一人の活動から始まり、時間がたつにつれてだんだん同じようなものを作っている友だちと自然とグループを作り一緒に活動し出した。その中で、いい作品を見てもっとよいものを作りたいと感じるようになったり、もっと工夫しておもしろくしたいと感じるようになったり、友だちと関わり合うことで活動に深まりができてきた。楽しみながら交流したり、また、違うおもちゃや飾りを作るグループについても関心をもって、お互いのよいところを認め合ったりする姿が見られた。すなわち、友だちと活動しながら、自分に関連している意見や全く新しい発想などを聞くことで友だちのよさに気づき、また、自分の活動に活かすといったひびき合う姿が見られた。

〈課題〉

・子どもの思考を大切にひびき合いを深めるためには、最悪の状況を考えていくつも手立てを用意しておく必要がある。そのためには、一時間一時間の子どもの様子を見とることが欠かせないことであり、その都度単元構想を修正していかなければならない。そのことが今後の課題である。そして、その具体的な見とりの方法も考えていかなければいけないと感じた。